東日本大震災から5年・・・

曽於高校生 福島の高校生と交流

２０１１年３月11日、未曾有の被害をもたらした東日本大震災。あれから5年の月日が経過してもなお、被災地では被災前のまちを取り戻そうと復興・復旧に取り組んでいます。

福島県裏磐梯（うらばんだい）観光協会は、震災後から低迷し続ける観光客や教育旅行生の誘致に力を入れています。現在でも放射性物質を懸念する人は多く、風評被害が根強く残っています。

福島県知事からの感謝状を手にする
柳井田さん（左）と猪俣さん（右）

同協会は風評対策として初めて「高校生の高校生による移動マルシェ」を企画。高校生同士の交流を通し、福島県産品の安全性や復興への歩みを発信するために行われています。

昨年12月16日、曽於高校修学旅行の２日目に福島県立磐城農業高校と同県立いわき海星高校との移動マルシェが実施されました。

磐城農高の生徒は校内のほ場で栽培したお米「天のつぶ」、いわき市産梨を加工したタレなどを用いた「ふくしまテンコ盛り焼肉丼」を調理し曽於高の生徒に振る舞いました。いわき海星高の生徒は加工品の販売と伝統芸能じゃんがら念仏踊りを披露。曽於高の生徒はお礼に校歌などを歌い交流を深めました。

曽於高校生徒会長の猪俣夕貴（いのまたゆうき）さんは「地中に染みこんだ放射線を除去するモノを早急に開発して欲しいという言葉が印象に残っています」と話し、生徒副会長の柳井田凛（やないだりん）さんは「被災された方から元気をもらいました。今回の交流で福島や被災地が身近になりました」と話しました。

福島県の高校生と交流を深めました。

平成27年12月17日（木） 福島民報新聞 朝刊

磐城農高→鹿児島の曽於高

「福島の味」で交流

北塩原 創作メニュー振る舞う

裏磐梯観光協 風評対策で初企画

いわき海星高はじゃんがら披露

福島民報新聞で交流会の
様子が紹介されました。

東北被災３県 福島・宮城・岩手

情報通信

福島

福島県の市町村は、今日も東日本大震災からの復興に全力で取り組んでいます。

私たち福島県民にとって何よりうれしいのは、全国の皆さんに今の「がんばる福島県」を素直に観て、食べて、飲んで、買って、ふれあって、笑顔の輪を広げていただくことです。

これまでのご支援に心より感謝申し上げますとともに、変わらぬ応援をよろしくお願いします。

福島県市長会長　相馬市長　立谷 秀清

宮城

東日本大震災に係り、全国の皆様から温かいご支援を賜り感謝申し上げます。

ご支援により復興しつつある宮城県内各地に足をお運びいただき、是非とも豊富な食材や自然、温泉、歴史など各市の魅力を存分に楽しんでいただきたいと思っております。

皆様に安心して旅を楽しんでいただけるようおもてなしをすることが、更なる復興の励みとなりますので、今後も応援をお願いいたします。

宮城県市長会長　仙台市長　奥山 恵美子

岩手

東日本大震災津波からの復興にあたっては、全国の皆様から多くのご支援と励ましを賜り、心から感謝申し上げます。

岩手県では、平成 28 年に復興の架け橋として「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」を開催します。

全国の皆様に、ご来場いただき、岩手の魅力を知って、買って、食べていただくことが、復興の大きな力となります。

今後とも、岩手の復興への歩みと地域活性化に応援をお願いいたします。

岩手県市長会長　盛岡市長　谷藤 裕明